

焼津市民から焼津市へ

第 7 次焼津市総合計画へ市民提言

令和 7 年 5 月 28 日

「みんなで考えよう焼津市の次期総合計画」参加市民一同

私たち焼津市民が日々の暮らしや活動の中で感じている、「もっと焼津がこうなったらいいな」。焼津市が次期総合計画を作られると聞き、焼津市で生活し、仕事をする私たち市民の声もぜひ取り入れてもらおう！との思いで「みんなで考えよう焼津市の次期総合計画」というワークショップを開催しました。

参加した多くの市民は「焼津市総合計画」を初めて見ました。それでも意見を伝えるなら、焼津市の計画や、実際に行っている事業を理解しようと、第 1 回は総合計画と焼津市の行う事業についての理解を深めました。その上で各自が「もっと焼津がこうなったらいいな」と思うテーマを提出し、合計 23 のテーマをメンバー内で選考し、第 2 回では選考テーマを「政策・施策・基本事業」に落とし込みました。

総合計画の文言を考えるという、私たちにとってはかなり難易度の高い体験であり、苦心しましたが、なんとか策定にこぎつけました。ここには市民の思いが詰まっています。総合計画を策定される焼津市役所の皆様には、そうした思いを受け取っていただき、第 7 次焼津市総合計画に反映いただきますよう、ここに提言書を提出させていただきます。



提言テーマ1

市民がまちの課題に関心を持ち、積極的に意見交換し、まちづくりに参加できる仕組みづくりを

政策：市民と共につくり未来へつなぐまちづくり（政策6と同一）

施策：互いに認め合い自分たちのまちをみんなでつくる共創社会の推進（施策6-1 変更）

基本事業：市民がまちづくりに関心を持ち、参加する仕組みづくり（新規）

主な内容：なんでも相談箱（意見箱よりも軽く入力ができる）

「やいづポリタウン」誰でも意見を出せるデジタル参加の「まちの広場」

「市民意見箱」の公開

市民の興味関心を引く市の事業紹介・意見交換会

こどもの意見表明（意見を言っても良いという雰囲気）を促す教育

市民のまちづくり参加（意見投稿・参加・地域活動など）で溜まる「やいづポイント」創設
諮問会議などへの若者世代（中学生から大学生）参加

大切にしてほしい視点：選挙の投票率は低く、市政に対する関心は若者を中心に低い状況です。焼津市が行っている市民の意見を聴くための活動（LINEを活用したアンケートや市民ワークショップ、関係団体へのヒアリングなど）をもう一歩前に進め、市民が市政やまちづくりにどうしたら関心を持つのか、どうしたら自由に意見を出し合えるのか、若者も市政参画意識を持つ事にはどうしたらよいか、そうした視点を総合計画に取り入れていただきたいと思います。

提言テーマ2 若者のチャレンジがまちに現れ、地元の人も“焼津って面白い”と実感できるまちへ

政策：安心安全で快適に暮らし、チャレンジにあふれたわくわくするまちづくり（政策5 変更）

施策：まちの資産を活用しチャレンジ意欲をかきたてる魅力あるまちづくりの実現（新規）

基本事業：チャレンジへの初期支援の充実とサポート体制の構築（新規）

主な内容：①空き家・空きテナント「おためしチャレンジ制度」

短期・低コストでの利用を可能に。失敗を恐れず“まずはやってみる”を後押しする仕組み。

②まちづくり DIY スタートパック

空き家バンクと連携し、「DIY 通り（駅前・中港・浜通りなど）」として特定エリアを設定。
利用者自身が DIY によって店舗や住居を整え、愛着を持ちながらスタートできる仕組み。

③お試し居住・保育園留学の推進

リモートワーク拡大により、短期滞在・二拠点居住のニーズが高まっています。

1～2 週間の「お試し焼津暮らし」を通じて、住んでみなければわからない焼津の魅力を
体感してもらう機会をつくります。

大切にしてほしい視点：空き家や空きテナントは大きな社会課題である一方で、その活用には信頼関係が求められます。所有者の多くは、「誰にでも貸したい」のではなく、「まちを大切にしてくれる人に使ってほしい」と願っています。

焼津での起業・移住・地域活動に意欲のある人の「やってみたい」を支える仕組みと環境を整えることで、多くの若者やチャレンジャーが、まちの資産を活かしながら新しい価値を生み出していけると考えています。空き家は単なる不動産ではなく、まちの未来を動かす“余白”です。そこに新しい力を呼び込み、地域の人たちとともにまちを育てていく仕組みが必要です。

提言テーマ3 **自分事として関心を持ち「正しく恐れ、正しく備える」市民防災力の向上**

政策：安全安心で快適に暮らせるまちづくり（政策5 同一）

施策：安心安全な暮らしの推進（施策5-1 同一）

基本事業：市民が自分事としてとらえる防災・減災意識の向上（施策5-1 基本事業変更）

主な内容：市民が楽しく参加する防災力向上企画（オープン避難タワー・楽しく学ぶレジリエンス講座）

市民に分かりやすい避難看板（海拔・津波想定・避難経路などが分かりやすい表示）

市民が楽しく触れるマルシェ連動防災イベント

「防災ショート動画」の発信（南海トラフ被害想定や津波想定、初期行動、非常持ち出し袋、在宅非難における備蓄などを楽しい短尺動画により理解促進をはかる）

大切にしてほしい視点：焼津市では津波避難タワーや防潮堤など、ハード面は充実してきましたが、市民が災害想定や防災について正しく理解し、災害発生時にただしく行動できるか課題があります。年に複数回ある避難訓練も、避難場所に集合し解散するのみの訓練では、本当に災害が発生した際にただしい行動はとれません。市民が関心を持ち、自分事としてとらえるには、情報発信や訓練を楽しく、分かりやすくする必要があります。これまでも出前講座やイベント企画がされていますが、より楽しい企画をすることで市民の理解が深まり、正しい備えにつながることを大切にしてほしいと思います。

提言テーマ4 **高齢者や車を運転しない人のニーズをとらえた抜本的な交通インフラ対策を**

政策：安全安心で快適に暮らし、チャレンジにあふれたわくわくするまちづくり（政策5 変更）

施策：暮らしを守り支える社会基盤の充実（施策5-2 同一）

基本事業：市内どこへでも行ける地域交通の再構築（新規）

主な内容：高齢者や車を運転しない人の交通ニーズを細かく調査し分析

タクシーやライドシェアなど、ニーズを満たす最適な交通手段を検討

現在の公共交通の利用状況と調査したニーズ及びコストを比較し検討

公共交通にとらわれない、民間事業を含めた地域交通を再構築

大切にしてほしい視点：免許返納者を含め、高齢者の交通手段は市内全域で充分ではありませんが、全てのエリアで税金を投入し、公共交通を整備することは不可能です。市が行なう事業の枠を超えて、市民の交通ニーズを満たす手段を調査分析し、民間と連携しながら、極力無駄がなく、市民ニーズにこたえられる交通を再構築してほしいと思います。

提言テーマ5

大人も子供も焼津に対する愛情と誇りを持ち、自律的にまちを盛り上げるシビックプライドの醸成

政策：市民と共につくり未来へつなぐまちづくり（政策6と同一）

施策：市民が焼津に愛情と誇りを持ち、市政に参加するシビックプライドの醸成（新規）

基本事業：市民と連携したふるさと教育の推進（新規）

主な内容：「ふるさと教育」統一カリキュラムの策定

学年別「ふるさと」テーマ設定（小4～中3「産業」「歴史」「小泉八雲」「第五福竜丸」等）

歴史民俗資料館・小泉八雲記念館・第五福竜丸展示館・漁業資料館などに協力を要請

講師や施設、バス等の手配は教員ではなく焼津市が全校全学年を調整

講師役は施設担当者もしくは地元企業、市民に要請

大切にしてほしい視点：焼津市教育大綱にも「郷土愛を育む地域教育の充実」の言及がありますが、統一した郷土教育は小学校3年生の社会における副読本「わたしたちのまちやいづ」のみです。各学校、各先生が総合学習や探究学習で、歴史民俗資料館や水産業の組合の方と、独自の授業を実施されていますが、市内の小中学生に統一して行われるものではありません。また、独自の郷土教育を実施する先生方は協力して下さる団体や企業に交渉、調整し、授業案を考えて実行されています。熱意のある先生はより多忙になります。統一したカリキュラムを策定することで、市内の小中学生全員が「ふるさとやいづ」の文化や歴史、産業に触れ、等しく郷土愛が醸成されます。また先生方の負担ではなく、市民が小中学生に教えることで、自分たち住む地域や携わる仕事、文化や歴史に誇りを持つ事ができ、シビックプライドの醸成に繋がります。

提言テーマ6

市民に寄り添った保育所相談で待機児童不安ゼロへ

政策：何かをあきらめず安心して子育てができ、子どもが心豊かに育つまちづくり（政策2変更）

施策：環境の変化に寄り添い、みんなで支える子育て環境の充実（施策2-1変更）

基本事業：子育て体制支援の充実（そのまま）

主な内容：待機児童ゼロにむけ、親御さんの環境に寄り添った保育所相談窓口の設置

大切にしてほしい視点：焼津市はデータ上、待機児童ゼロですが、保育所に入れず仕事に復帰できない方、保育所に入園できないため、幼稚園に通わせるために勤務時間を短縮する方、やむを得ずパート勤務に変更される親御さんなどの声が多数あります。保育所には定員があり、親御さんの要望があってもキャ

パシティ以上には受け入れられません。また市民の申し込みを公平に取扱うため、保育利用調整基準の点数により優先順位が決められることは理解できます。とはいえ、保育所が決まらず職場復帰できない、生活の計画が立たない世帯が存在し、いつまで待てばよいのかという不安と憤りを感じながら子育てをされています。子育て世帯の親御さんの環境（職場復帰のタイミングや家族事情など）に寄り添い、どうしたら保育所に預けられ、安心して仕事に復帰できるのか、様々な選択肢を一緒に考える窓口の創設を期待します。それが真の待機児童ゼロにつながり、焼津市がますます子育て世帯にやさしいまち、住みたいまちへと進化していく事と思います。

提言テーマ7

心の健康を第一に考え「いじめゼロ」「ハラスメントゼロ」「自殺者ゼロ」を目指すまちへ

政策：共に支え合い豊かに暮らせるまちづくり（政策1と同一）

施策：健康で豊かな暮らしの実現（施策1-1と同一）

基本事業：市全体で取り組む「心の健康増進」

主な内容：心の健康第一宣言（いじめゼロ・ハラスメントゼロ・自殺ゼロにむけた宣言）

「心の健康」直轄部門の創設

「心の健康」部門に「いじめ・ハラスメント119」設置

（学校教育・企業教育に任せず、いじめやハラスメントは絶対に許さず追求するとの意思を持った、独自機関であることが重要）

Well-being（もしくは独自調査）調査などで心の健康に関する指標を時系列で調査

市内企業に対するハラスメント防止、心理的安全性向上にむけた啓発活動

大切にしてほしい視点：現行計画でも、施策が目指すのは「市民が心身共に健康で暮らしている」姿ですが、基本事業では心の健康に関する事業がありません。市民の幸福度向上は、経済や身体的健康と共に、心の健康が大きな要素を占めます。また「いじめ」は不登校、「ハラスメント」は離職や自殺などの社会課題に直結します。児童生徒や役所に勤務する方に対してはもちろん、市内企業に対しても啓発を行う事で、焼津市が市民の心の健康を第一に考えているとのメッセージにつながります。「いじめ・ハラスメント119番」創設は、市民に分かりやすく焼津市の意思を伝えられると思います。